令和3年度第19回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について（お知らせ）

令和3年度第19回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校51校（団体）・2652首、中学校47校（団体）・3952首、高等学校45校・4475首、合計143校（団体）・11079首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第1次選考（入選200首）、第2次選考（優秀賞52首）、さらにこのたび（2月18日）、選考委員の大瀧保・栗木京子・田村元の3氏による最終選考会（Web会議）が開かれ、小・中・高校の各部門2首・計6首の最優秀賞が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞の表彰式は、令和4年5月15日（日）開催予定の生誕140年第48回斎藤茂吉記念全国大会の席上にて執り行う予定です。また、最優秀賞作品・優秀賞作品を含む全入選作品を収めた「令和3年度第19回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年3月15日付で発行し、応募学校（団体）等に配布いたします。

主催　山形県・上山市・上山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館
お問合せ先　公益財団法人斎藤茂吉記念館
〒999-3101　山形県上山市北町字弁天1421
TEL 023-672-7227　Fax 023-672-2626

令和3年度第19回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品（全六首）

【小学校の部】

あさ早くじいちゃんゆきかきありがとうくつ下ぬれずとう校できる
白鷹町立荒砥小学校　一年　沼澤叶（ぬまざわ かなう）

四だんの台上前てんちょうせんだおしりを上げたらきれいに出来た
上山市立上山小学校　二年　大城優太（おおき ゆうた）

【中学校の部】

住宅街しゃけの匂いをかぎながら自転車をこぐ部活の帰り
早稲田大学系属早稲田実業学校中等部　二年　関田芽生（せきた めい）

はんこ屋の祖父が片手で彫りゆくはキラリと光る「恭賀新年」
山形県立東桜学館中学校　三年　藤平恭子（ふじひら きょうこ）

【高等学校の部】

四五歳（しごさい）の頃と変わらぬ祖母の家違和感一つ線香匂ふ
山形市立商業高等学校　一年　浅野陽人（あさの ひなと）

担任と三者面談する机トライアングル真ん中に夢
東京学館新潟高等学校　一年　斎藤蒼司（さいとう そうじ）

令和3年度第19回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール優秀作品（全五十二首）

■小学校の部（十五首）

山形市立蔵王第二小学校

後半から足がびんびんいたかっただけど走りきる十秒ちぢんだ
四年　渡邊　真弦　わたなべ　まいと

上山市立上山小学校

ダンスするじぶんでつくったふりつけできょくのリズムにからだがうごく
一年　佐藤　煌　さとう　きらら

きゅうしょくでだいふきとうばんがんばったいつものあじよりおいしかったな
一年　鈴木　青空　すずき　そら

さむい朝はっぱがしもにかこまれてたすけてと言われしもをはらった
二年　梅津　泰自　うめつ　たいじ

四だんの台上前てんちょうせんだおしりを上げたらきれいに出来た
二年　大城　優太　おおき　ゆうた

トンボがねぼくの頭に止まったよ休んでいいよゆっくりしてね
三年　布宮　優太朗　ぬのみや　ゆうたろう

上山市立宮川小学校

生まれたよめっちゃかわいいおとうとがおうだんがでてママがないてた
一年　木村　陽　きむら　はる

いえのにわでながしそうめんじいちゃんが竹でつくったコップでつるん
一年　佐藤　来冬　さとう　らいと

白鷹町立荒砥小学校

あさ早くじいちゃんゆきかきありがとうくつ下ぬれずとう校できる
一年　沼澤　叶　ぬまざわ　かなう

鶴岡市立京田小学校

さかなつりさおのさきにはあかとんぼぼくといっしょに魚をねらう
三年　原田　蓮央　はらだ　れお

酒田市立松陵小学校

目の前の小さいえんぴつ換え時だあと少しだな卒業式まで
六年　中西　朱り　なかにし　しゅり

郡上市立大和西小学校

リズムよく百年前の脱こく機力を入れて足ぶみをする
五年　堀　夏彩　ほり　なつみ

リズムよくみんなでよいしょ足ぶみをふんばりながらだっこくをやる
五年　山田　秀弥　やまだ　しゅうや

郡上市立大和南小学校

ゴシゴシとかぞくのおさらピカピカにおさらあらいはわたしにまかせて
一年　田中　睦季　たなか　むつき

郡上市立大和北小学校

ダンゴムシチョコチョコ歩くかわいいなてきがあらわれ丸くへんしん
三年　杉下　千夏　すぎした　ちなつ

■中学校の部（十七首）

山形市立第六中学校

「けぇ、けぇ。」と言われて食べる兄と私にこにこほほえむじいじとばあば
一年　郡司　春陽　ぐんじ　はるひ

ありがとうその一言が言えなくて母の背中をじっと見つめる
二年　渡辺　愛佳　わたなべ　あいか

山形市立第七中学校

青空と樹氷の白に囲まれて父の背を追い滑る雪山
一年　深瀬　悠斗　ふかせ　ゆうと

山形市立蔵王第二中学校

靴擦れの痛み高まる蔵王山雲海抜けて低くなる樹々
二年　増田　朝飛　ますだ　あさひ

上山市立北中学校

肺気胸済生館に入院し息をするたび家族を思う
二年　稲毛　倖大　いなげ　こうだい

背負い投げ自分のものにするために汗かきながら打ち込み百本
二年　山口　司　やまぐち　つかさ

山形県立東桜学館中学校

テキストを泳ぐ赤文字青丸はくやしい思いと「分かった」の跡
一年　星川　美月　ほしかわ　みつき

はんこ屋の祖父が片手で彫りゆくはキラリと光る「恭賀新年」
三年　藤平　恭子　ふじひら　きょうこ

短歌団体応募（東根市立第一中学校）

夢を追い素振りした手はまめだらけその手にペン持ち受験に挑む
三年　片平　優斗　かたひら　ゆうと

仙台市立郡山中学校

妹の朝のおはよう聞くだけで今日の予定がだいたいわかる
一年　奥山　詩音　おくやま　しおん

電車の中電話で怒鳴るその人の少し見えてるピンクの靴下
一年　鷹島　唯　たかしま　ゆい

屋外でにぎやかに食べるお弁当中学最初の黙食解除
二年　五代儀　奈央　いよぎ　なお

学習院女子中等科

ねんれいもクツのサイズも三つ差で少しきらいで好きな姉さん
一年　阿部　美弥子　あべ　みやこ

明治大学付属明治中学校

気付いたら好きになってたこの曲は君が好きだと言っていた曲
二年　神　萌々香　じん　ももか

住宅街しゃけの匂いをかぎながら自転車をこぐ部活の帰り
早稲田大学系属早稲田実業学校中等部　二年　関田　芽生　せきた　めい

お姉ちゃん学校で呼ばれふりかえるくしゃっと笑う小さい弟
愛知工業大学名電中学校　二年　山梨　彩夏　やまなし　あやか

「会いたい」と画面越しから届く声「一目見ん」とぞ急ぎ答える
大阪市立矢田南中学校　二年　小谷　悠統　こたに　はると

■高等学校の部（二十首）

二階からいつも眺める蔵王山ふぅとため息宿題やらなきゃ
山形県立山形西高等学校　一年　清野　小春　せいの　こはる

テスト前夜薪絶やさずにくべる父ゆらめく炎我を励ます
一年　伏貫　珠生　ふしぬき　たまき

部活後に雪の土俵で相撲とり最後はみんな雪にまみれる
二年　齋藤　ゆづき　さいとう　ゆづき

トントンと包丁鳴らす先生とトトンットトンと崩れる私
山形県立山辺高等学校　二年　佐藤　ほの香　さとう　ほのか

友達と盛りつけた料理見せ合うと互いの指に治りかけの傷
山形県立東桜学館高等学校　二年　鈴木　開斗　すずき　かいと

年明けて進路に悩む深夜二時部屋から見えぬ北斗七星
山形市立商業高等学校　二年　工藤　みなみ　くどう　みなみ

四五歳（しごさい）の頃と変わらぬ祖母の家違和感一つ線香匂ふ
一年　浅野　陽人　あさの　ひなと

インスタのストーリーにのせる時本当の自分隠しつつある
一年　伊藤　世那　いとう　せな

けんかして無言で家出るそんな日は母の「おかえり」大きく響く
一年　鏡　心音　かがみ　ここね

集まるな！マスク外すな！群れ集うムクドリになり飛んでいきたい
一年　佐藤　百華　さとう　ももは

妹はまだまだ渋い干柿をもういいかなと今日も味見す
一年　清野　千桃　せいの　ちもも

カレーにもやはり年季は出るらしい母の煮込んだやはらかにんじん
学習院女子高等科　一年　青木　茉莉　あおき　まり

コロナ禍で直接触れない優しさと手袋ごしの温かさあり
一年　木下　愛珠　きのした　あんじゅ

指染めて祖母と作った梅干しを父さん一粒つまんで出勤
東京学館新潟高等学校　一年　青山　怜依奈　あおやま　れいな

担任と三者面談する机トライアングル真ん中に夢
一年　斎藤　蒼司　さいとう　そうじ

看護師の母はテレビの画面にも鼻マスクの人注意始める
一年　樋口　美羽　ひぐち　みう

年末の決算の日の母を待ちほうじ茶入れる二十二時過ぎ
二年　生野　帆乃花　はいの　ほのか

宝物を掘り当てるように雪かきをする老人に出会う早朝
長野県松本蟻ケ崎高等学校　一年　北河　恒輝　きたがわ　こうき

喜寿の日に祖父へ祝いの手紙書く兄の横顔ほんのり赤い
一年　藤森　藍生　ふじもり　あい

以前より手になじむのはしわくちゃのしょうゆのついた英単語帳
宮崎県立日南高等学校　二年　八木　泰晴　やぎ　たいせい

令和3年度第19回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品（全二〇〇首）

■小学校の部（四十八首）

折り紙で作ったコマにじゃれるねこ作りなおせばまたやぶかれる
山形市立東沢小学校　四年　会田　悠凛音　あいた　ゆりん

猫の毛がいよいよモフッとふえてきて本格的な冬のおとずれ
四年　安部　凪　あべ　なぎ

海の月名前の通り美しい海の底でもかがやいている
山形市立蔵王第一小学校　六年　中山　恭輔　なかやま　きょうすけ

草むしりぼくたちの手でグラウンドを運動会まできれいにしたぞ
山形市立蔵王第二小学校　六年　荒井　遥真　あらい　はるま

持久走なかなかこせない自己ベスト今日こそ絶対二十秒台
五年　山口　涼介　やまぐち　りょうすけ

後半から足がびんびんいたかったけど走りきる十秒ちぢんだ
四年　渡邊　真弦　わたなべ　まいと

運動会玉入れ一こ差ああ残念ぼくは一こも入れてません
山形市立宮浦小学校　四年　岡崎　拓真　おかざき　たくま

ダンスするじぶんでつくったふりつけできょくのリズムにからだがうごく
上山市立上山小学校　一年　佐藤　煌　さとう　きらら

きゅうしょくでだいふきとうばんがんばったいつものあじよりおいしかったな
一年　鈴木　青空　すずき　そら

台上前てんなかなかうまくまわれないおへそを見たらじょうずにまわれた
二年　荒井　志帆　あらい　しほ

バドミントンシャトルがなかなか当たらないそれでも楽しいママとの時間
二年　伊藤　歩美　いとう　あゆみ

さむい朝はっぱがしもにかこまれてたすけてと言われしもをはらった
二年　梅津　泰自　うめつ　たいじ

四だんの台上前てんちょうせんだおしりを上げたらきれいに出来た
二年　大城　優太　おおき　ゆうた

コンパスでくるくるくるりむずかしいだんだんうまく円の花がさく
三年　安食　虹愛　あじき　にな

トンボがねぼくの頭に止まったよ休んでいいよゆっくりしてね
三年　布宮　優太朗　ぬのみや　ゆうたろう

ステージの中央に立ち堂々とセリフを言えば緊張ほぐれる
五年　山川　悠介　やまかわ　ゆうすけ

あとすこし自分が出る番近づいてふるえる指に力を入れる
六年　小林　しずく　こばやし　しずく

練習でミスらずバトンできたけど発表会でバトン落とした
六年　渡邉　陽向　わたなべ　ひなた

冬休みママとライザでスキーのりかぜがビュービュー顔がまっかだ
上山市立中川小学校　二年　齋藤　瑠音　さいとう　るおん

雪の上ねころんでみたすずしかったよお空の上にいるみたいだよ
上山市立南小学校　三年　中村　優太　なかむら　ゆうた

朝早くランプピカピカじょ雪車だブレードでおして雪山作る
三年　渡部　悠希　わたなべ　ゆうき

雪の坂スリルまんてんそりすべりなんども下りなんどものぼる
四年　金塚　悠真　かねつか　はるま

かささして雨の音聞く帰り道頭の上でリズムがはねる
五年　安部　颯悟　あべ　そうご

赤とんぼ校庭いっぱい広がったこの指とまれ連結とんぼ
五年　小池　葉露　こいけ　はろ

お盆花たばねる手伝い午後十時明日（あした）たくさん売れるといいな
五年　武田　羽心　たけだ　うた

父乗った「つばさ」見送り泣けてくる次の休みが待ちどおしい
五年　豊澤　健志　とよさわ　けんし

「知ってるよ。」サンタはだれか言ってみた「いつ気づいたの」母が見つめる
五年　町田　大冴　まちだ　たいが

汗だくで雪かき終えたぼくの横うなりをあげて除雪車通る
六年　東谷　空穏　とうや　くおん

生まれたよめっちゃかわいいおとうとがおうだんがでてママがないてた
上山市立宮川小学校　一年　木村　陽　きむら　はる

いえのにわでながしそうめんじいちゃんが竹でつくったコップでつるん
一年　佐藤　来冬　さとう　らいと

クリスマス早くあげたいプレゼント父さん母さんいつもありがと
大石田町立大石田小学校　二年　松倉　楠奈　まつくら　なな

あさ早くじいちゃんゆきかきありがとうくつ下ぬれずとう校できる
白鷹町立荒砥小学校　一年　沼澤　叶　ぬまざわ　かなう

さかなつりさおのさきにはあかとんぼぼくといっしょに魚をねらう
鶴岡市立京田小学校　三年　原田　蓮央　はらだ　れお

冬の朝かさをさすなりうちつけるダンダンダダンとあられのつぶが
鶴岡市立大山小学校　四年　五十嵐　悠斗　いがらし　はると

力こめ投げた一球しんぱんの「アウト」の声でこころがおどる
四年　佐藤　陸　さとう　りく

目の前の小さいえんぴつ換え時だあと少しだな卒業式まで
酒田市立松陵小学校　六年　中西　朱り　なかにし　しゅり

まどの外飛ぶ鳥を見るねこがいるしっぽぶんぶんとれちゃいそうだ
江東区立数矢小学校　四年　城野　績希　じょうの　つむぎ

郡上市立大和西小学校

美濃和紙は不思議なかんじざらざらだ自分が作ったはじめての紙
四年　尾藤　里樹　びとう　りじゅ

リズムよく百年前の脱こく機力を入れて足ぶみをする
五年　堀　夏彩　ほり　なつみ

リズムよくみんなでよいしょ足ぶみをふんばりながらだっこくをやる
五年　山田　秀弥　やまだ　しゅうや

郡上市立大和南小学校

ゴシゴシとかぞくのおさらピカピカにおさらあらいはわたしにまかせて
一年　田中　睦季　たなか　むつき

ぼく地層みんなにけずられ持ってかれ体の一部がなくなっちゃった
六年　神谷　一真　かみや　かずま

郡上市立大和北小学校

あき見つけおさらにかざるどんぐりとあかいもみじといちょうのはっぱ
一年　玉木　紫野　たまき　さいや

ダンゴムシチョコチョコ歩くかわいいなてきがあらわれ丸くへんしん
三年　杉下　千夏　すぎした　ちなつ

郡上市立大和第一北小学校

おかあさんにこにこしてるやさしいなおふとんできくおはなしがすき
一年　安田　咲結　やすだ　さゆ

つららがねキラキラ光るきれいだなとがっていたよキンキンつめたい
二年　畑中　秀誓　はたなか　しゅうせい

とび箱は大好きなんだ楽しいよいきおいつけてめざせ六だん
三年　籏　まいな　はた　まいな

枚方市立長尾小学校

手に乗ると秋と感じるイチョウの葉黄色い布団星のような葉
五年　田中　知優　たなか　ちひろ

■中学校の部（七十二首）

山形市立第五中学校

指揮者の手皆一斉に息を吸う楽器の音と心ひとつに
二年　金成　千彩　かねなり　ちさ

緊張と楽しみあふれる本番前仲間と楽譜が私を励ます
二年　佐藤　澪　さとう　みお

山形市立第六中学校

大会で負けて泣いた僕を見て励ましたのは対戦相手
一年　越前　柚斗　えちぜん　ゆずと

大掃除心の鏡みがきあげ来年こそは文武両道
一年　片倉　大和　かたくら　やまと

「けぇ、けぇ。」と言われて食べる兄と私ににこにこほほえむじいじとばあば
一年　郡司　春陽　ぐんじ　はるひ

朝早く起きて喫する母の味相も変わらず愛も変わらず
二年　横澤　瑠呼　よこさわ　るこ

ありがとうその一言が言えなくて母の背中をじっと見つめる
二年　渡辺　愛佳　わたなべ　あいか

山形市立第七中学校

母さんが毎朝作るカフェオレに心も体も喜んでいる
一年　長内　優咲　おさない　ゆうさく

青空と樹氷の白に囲まれて父の背を追い滑る雪山
一年　深瀬　悠斗　ふかせ　ゆうと

少しずつノートをうめてく私の字なんだか少しおしゃれに見える
二年　佐藤　和羽　さとう　かずは

山形市立蔵王第二中学校

「ナニカクレ」年寄りカラス迫り来るあげられないよ母のお結び
二年　小宮山　虎太　こみやま　とらた

靴擦れの痛み高まる蔵王山雲海抜けて低くなる樹々
二年　増田　朝飛　ますだ　あさひ

上山市立南中学校

南陽の熊野大社に初もうで今年の運勢大吉を引く
一年　吉田　旺佑　よしだ　おうすけ

羽黒山登って見えた絶景が修学旅行の始まり告げる
三年　冨士　倖哉　ふじ　ゆきや

上山市立北中学校

たすき渡しみんなが僕に「おつかれ！」と走ってよかった１５００メートルを
一年　安達　渓人　あだち　けいと

初詣新雪踏みしめ登る坂ヒール履く母ペンギン歩き
一年　菅野　桃花　すがの　ももか

窓を開けマスクをつけて歌っている制限の中マスクが動く
一年　半田　穂佳　はんだ　ほのか

挑戦し足の先までたたきこむ転んで学ぶスケートボード
二年　伊藤　美優　いとう　みゆう

肺気胸済生館に入院し息をするたび家族を思う
二年　稲毛　倖大　いなげ　こうだい

ディフェンスと並んで走るリング前相手振り切り強く踏み切る
二年　堀江　楓真　ほりえ　ふうま

柔道着を着た瞬間に始まった大そとがりで一本とった
二年　山川　楓音　やまかわ　かのん

背負い投げ自分のものにするために汗かきながら打ち込み百本
二年　山口　司　やまぐち　つかさ

寒河江市立陵西中学校

ＡＩであふれる未来で僕たちはなってたまるかＡＩ以下に
二年　真木　飛鳳　まき　ひたか

南陽市立宮内中学校

合わせる音（ね）指揮者見つめて吹きしとき息を合わせて次のフレーズ
一年　仙田　彩歌　せんだ　あやか

個人練一人さびしく吹いてたらいつのまにかに重なる音色
一年　矢野　友佳　やの　ゆうか

なんとなく手に取ってみたその本が教えてくれた世界の広さを
三年　鈴木　翔也　すずき　しょうや

久々に浴びた日光突き刺さる気にしてさわるのびた前髪
三年　山口　翔平　やまぐち　しょうへい

東京の友から届いたＬＩＮＥには変わらぬ笑顔真っ赤なりんご
テキストを泳ぐ赤文字青丸はくやしい思いと「分かった」の跡
おおみそかおしゃれに飾るかむやしろ除夜の鐘鳴りあふれる笑顔
はんこ屋の祖父が片手で彫りゆくはキラリと光る「恭賀新年」

夢を追い素振りした手はまめだらけその手にペン持ち受験に挑む

よろしくねと出会った日からもう十年こたつで丸まる君をみつめる

妹の朝のおはよう聞くだけで今日の予定がだいたいわかる
電車の中電話で怒鳴るその人の少し見えてるピンクの靴下
屋外でにぎやかに食べるお弁当中学最初の黙食解除
目の前にわっと広がる黄金の稲さくっと響く鎌で切る音

この道を初めて歩くのはわたし積もった雪に長靴の跡
クリスマス疲れて眠る母の横プレゼント置く小さなサンタ
真っ白の地面の上のシュプールに僕も重ねた新たなライン

テスト後物語文の人物の容姿を友と想像しあう

父の背を小指一本ぬかした僕小さな夢がついに叶った
久しぶりマスクをとった友の顔見てるとなぜか笑えてきたよ

幼い手ふれるとすぐにこわれそう生まれてくれてどうもありがとう

ねんれいもクツのサイズも三つ差で少しきらいで好きな姉さん
幕が閉じ声する方にふりむけば怖い先輩涙あふれる
忘れ物主（あるじ）はどこへ蓑残しミノガの子供旅立ちの日か
雨ふっていろんな人が手に持った色とりどりの傘がきれいだ
夕暮れに一人ぽつんと立ち止まる一つの曲が「前に進め」と
背の低い私の電車通学の酸素濃度が非常にうすい
たくさんの消しゴムのカス卓上にテスト期間の努力のあかし
なじめるか不安であふれた教室もいつしか私の居場所になって
弟の古くなってくランドセル大きくなった背中が見える
しば犬（いぬ）が見上げる空にうろこ雲冷たい風がマスクをなでる
「寒いね」を言い訳にして手を繋ぐゆっくりとした母娘（ははこ）の時間
登校時何もなかったこの道がサンタが通った銀世界のよう
きらきらの粉雪が舞う早朝に家族で囲む火のあたたかさ
「積もるかな」雪の降る日に言う台詞「積もるといいね」君の番だよ
おみくじは「南はすべていい」というけれど私は正面を向く
箱根路を走る勇姿に画面越し叫ぶ応援届くといいな

夏祭り線香花火落ちないでまだまだ俺は帰りたくない
新品の傘と私が雨を待つからかうように微笑む太陽
気付いたら好きになってたこの曲は君が好きだと言っていた曲

ふと気づき気づいたことをメモに書く調べるたびに広がる世界
オンライン画面の前でただ一人楽さ半分さびしさ半分
寒くても花咲き誇る朝顔に少しばかりの勇気をもらう
長い髪切れず毎日手入れするあなたに「きれい」と言われただけで
親の声あと三行だけ読んでからちょっと急いでしおりを挟む

住宅街しゃけの匂いをかぎながら自転車をこぐ部活の帰り

山形県立東桜学館中学校
一年　西尾　奏人　にしお　かなと
一年　星川　美月　ほしかわ　みつき
二年　寒河江　陸　さがえ　りく
三年　藤平　恭子　ふじひら　きょうこ

短歌団体応募（東根市立第一中学校）
三年　片平　優斗　かたひら　ゆうと

当麻町立当麻中学校
二年　佐藤　拓人　さとう　たくと

仙台市立郡山中学校
一年　奥山　詩音　おくやま　しおん
一年　鷹島　唯　たかしま　ゆい
二年　五代儀　奈央　いよぎ　なお
二年　遠藤　脩　えんどう　しゅう

江戸川学園取手中学校
二年　伊森　文音　いもり　あやね
二年　國岡　杏奈　くにおか　あんな
二年　清水　来　しみず　らい

茨城県立下館第一高等学校附属中学校
一年　桑谷　唯花　くわたに　ゆいか

さいたま市立原山中学校
二年　白井　寅之介　しらい　とらのすけ
二年　柳澤　章伍　やなぎさわ　しょうご

品川区立伊藤学園
一年（七年）林　真希子　はやし　まきこ

学習院女子中等科
一年　阿部　美弥子　あべ　みやこ
一年　小﨑　夢乃　こざき　ゆの
一年　東風谷　莉世　こちや　りせ
一年　齋藤　心美　さいとう　ここみ
一年　佐々木　咲和　ささき　さわ
一年　鈴木　千歳　すずき　ちとせ
一年　髙杉　遥子　たかすぎ　ようこ
一年　西　珠希　にし　たまき
一年　林　楓　はやし　かえで
一年　矢澤　由衣　やざわ　ゆい
二年　相場　美月　あいば　みつき
二年　後藤　文乃　ごとう　あやの
二年　田中　乃愛　たなか　のえ
三年　石渡　絢　いしわたり　あや
三年　髙嶌　莉里花　たかしま　りりか
三年　田島　櫻子　たじま　さくらこ

明治大学付属明治中学校
二年　石渡　大馳　いしわた　だいち
二年　佐伯　菜実　さえき　なみ
二年　神　萌々香　じん　ももか

吉祥女子中学・高等学校
二年　今川　采璃　いまがわ　ことり
二年　江下　陽子　えした　ようこ
二年　加藤　伶奈　かとう　れいな
二年　栢　絵理香　つげ　えりか
二年　横井　美玲　よこい　みれい

早稲田大学系属早稲田実業学校中等部
二年　関田　芽生　せきた　めい

ボート漕ぎ川面の水がキラッと光るスピード上げて僕の青春
川辺町立川辺中学校　一年　山口　翔大　やまぐち　しょうた

お姉ちゃん学校で呼ばれふりかえるくしゃっと笑う小さい弟
愛知工業大学名電中学校　二年　山梨　彩夏　やまなし　あやか

「会いたい」と画面越しから届く声「一目見ん」とぞ急ぎ答える
大阪市立矢田南中学校　二年　小谷　悠統　こたに　はると

■高等学校の部（八十首）

山形県立山形西高等学校

ふる里の畑にのびるしもばしら幼きあの日のふみしめる音
一年　太田　実来　おおた　みく

二階からいつも眺める蔵王山ふぅとため息宿題やらなきゃ
一年　清野　小春　せいの　こはる

除雪機の音で目覚める雪の朝おじじ待ってと長靴を履く
一年　田口　加奈子　たぐち　かなこ

テスト前夜薪絶やさずにくべる父ゆらめく炎我を励ます
一年　伏貫　珠生　ふしぬき　たまき

針を手に西日が陰る祖母の背の寂しい丸み今はもうなき
二年　飯澤　百花　いいざわ　ももか

響く歌歓声無い手にペンライトマスク越しでも想いよ届け
二年　尾形　美咲　おがた　みさき

雪かきで疲れて冷えた心身に温かくしみる感謝の言葉
二年　北澤　瑠那　きたざわ　るな

部活後に雪の土俵で相撲とり最後はみんな雪にまみれる
二年　齋藤　ゆづき　さいとう　ゆづき

ふりむいたあなたどこか儚くて舞い落ちる桜切れないシャッター
二年　平田　千乃　ひらた　ちの

山形県立上山明新館高等学校

泣きながら話す友を抱きしめるあなたの居場所はここにあるよと
一年　月田　乃愛　つきた　のあ

冬の夜散歩がてらに歩いたらマイナス五度と光る掲示板
二年　坂野　香凜　さかの　かりん

あと何度この制服を着るのかな青春脱いでスーツに変わる
二年　鈴木　美咲　すずき　みさき

苦手だな君を知らずに避けていたそんな君とは今は友達
三年　桐生　未咲　きりう　みさき

縁側で寝転ぶ僕と揺れる風葉月の末のせみの抜け殻
三年　佐藤　妃菜　さとう　ひな

山形県立山辺高等学校

夏休み部活の迎え祖父頼み（だの）帰りは決まってラーメン屋さん
一年　澁谷　琉那　しぶや　るな

栗きんとん二度目の試作の課題点でる言葉は全部（みな）プロシェフのよう
二年　酒井　望愛　さかい　のあ

無菌操作分かっていても難しい難無く出来る先輩看護師
二年　寒河江　こころ　さがえ　こころ

トントンと包丁鳴らす先生とトトンットンと崩れる私
二年　佐藤　ほの香　さとう　ほのか

友達と盛りつけた料理見せ合うと互いの指に治りかけの傷
二年　鈴木　開斗　すずき　かいと

「がんだって」祖父の診断聞いた時私も一緒に闘うと決めた
二年　中嶌　華帆　なかじま　かほ

蕪を切る先生の手に菊花（きくか）咲く自分の手には五月の蕾
二年　藤田　琉唯　ふじた　るい

看護実習先生からのアドバイス上達できる魔法にかかる
二年　村山　彩乃　むらやま　あやの

実習で先生が見る桂むき手がふるえて見渡す周り
二年　吉田　琉輝　よしだ　りゅうき

山形県立東桜学館高等学校

もう少しあと3文字を書ききればその時響く「終了」の声
一年　保科　早絵子　ほしな　さえこ

目の前に広がる雪のキャンパスに踏み出しつける私の足跡
二年　奥山　知佳子　おくやま　ちかこ

年明けて進路に悩む深夜二時部屋から見えぬ北斗七星
二年　工藤　みなみ　くどう　みなみ

雪灯篭狭く長い道照らし目指す先には鐘の鳴る音
二年　佐々木　優和　ささき　ゆうな

今せむといひしばかりに大量の宿題の山をながめつるかな
二年　山川　日菜季　やまかわ　ひなき

山形県立米沢工業高等学校

練習着茶色に染まるどろどろに最後に止めるサッカーボール
一年　小方　大希　おがた　だいき

朝霧の濃い中一人深呼吸この時期だけの朝の楽しみ
一年　岡本　七海　おかもと　ななみ

検定の練習成果日々増える鉄と青春削る旋盤
一年　櫻木　陽都　さくらぎ　はると

終盤の百メートルが見せどころ手足しびれる最後のスパート
一年　情野　優也　せいの　ゆうや

山形県立置賜農業高等学校

月一の電話のために今日も生き好きとつぶやく遠距離二年
三年　鈴木　梨夢　すずき　りむ

山形市立商業高等学校

大喧嘩朝には変わらぬ弁当が言えない感謝示す完食
一年　朝倉　結菜　あさくら　ゆな

四五歳（しごさい）の頃と変わらぬ祖母の家違和感一つ線香匂ふ
一年　浅野　陽人　あさの　ひなと

インスタのストーリーにのせる時本当の自分隠しつつある
一年　伊藤　世那　いとう　せな

けんかして無言で家出るそんな日は母の「おかえり」大きく響く
一年　鏡　心音　かがみ　ここね

集まるな！マスク外すな！群れ集うムクドリになり飛んでいきたい
一年　佐藤　百華　さとう　ももは

母親に怒られすねる子供みて今なら分かる愛されてると
一年　庄司　愛蘭　しょうじ　あいら

トモダチとケンカした日の帰り道止まれの標識大きく見えた
一年　須貝　徠史　すがい　らいし

妹はまだまだ渋い干柿をもういいかなと今日も味見す
一年　清野　千桃　せいの　ちもも

「のどいたい」君の鼻声聞いてからいつも持ってるあいとのどあめ
一年　髙橋　仁子　たかはし　にこ

窓際でトランペットを吹きながらかじかむ手先もう高い月
一年　塚野　雅千　つかの　まち

去年まで髪を気にせずいた友が前髪なおす悪天の朝
一年　長谷川　桃子　はせがわ　ももこ

スーパーに行くと感じる物足りなさ今は無きもの「ご試食どうぞ」
一年　古瀬　心羽　ふるせ　こはね

学校法人齋藤学園鶴岡東高等学校

色あせたアゲハがとまる玄関に亡き祖父重ね目元が潤む
三年　阿部　佳加　あべ　よしか

東京都立足立高等学校

空見上げ古郷思ふ冬の晩ふと省みる父母の顔
一年　井上　天斗　いのうえ　たかと

東京都立府中高等学校

学校は同調圧力生産機ココ出て世界へフライ☆フライアウェイ！
三年　高遠　瑞生　たかとお　みずき

学習院女子高等科

カレーにもやはり年季は出るらしい母の煮込んだやはらかにんじん
一年　青木　茉莉　あおき　まり

コロナ禍で直接触れない優しさと手袋ごしの温かさあり
一年　木下　愛珠　きのした　あんじゅ

蝉の声覆うサイレン鳴り響き一人目つむる八月六日
一年　田中　茉莉　たなか　まつり

帰りみち祖父母の家の木の香り弟のコートからふんわりとする
一年　安田　有未乃　やすだ　ゆみの

山梨県立甲府工業高等学校

あの日から止まったままの秒針と進み続ける復興の道
三年　齊藤　麻子　さいとう　まこ

訪れた津波の跡地と松島で学ぶ自然の恐さ美しさ
三年　古屋　鳳千　ふるや　ほうせん

東京学館新潟高等学校

指染めて祖母と作った梅干しを父さん一粒つまんで出勤
一年　青山　怜依奈　あおやま　れいな

衣替え終えて1階自販機の商品半分ホットに変わる
一年　浅見　典彦　あさみ　のりひこ

担任と三者面談する机トライアングル真ん中に夢
一年　斎藤　蒼司　さいとう　そうじ

看護師の母はテレビの画面にも鼻マスクの人注意始める
一年　樋口　美羽　ひぐち　みう

数学の方程式のｘｙシータも出現混乱まねく
一年　平松　穂花　ひらまつ　ほのか

信越線下校途中に一つだけ夜景が光る瞬間がある
一年　藤関　杏奈　ふじせき　あんな

剣道の遠征続く週末も「いってらっしゃい」母が背を押す
一年　松井　裕輝　まつい　ひろき

トーストに蜂蜜かける父さんの疲れは無言の蜂蜜の量
一年　吉田　そら　よしだ　そら

屋根直す職人さんが蟷螂の卵見つけた大雪予言
二年　宇佐美　真緒　うさみ　まお

ベランダで窓見る僕と眼を合わす鴉も一人君は自由か？
二年　大西　瑛太　おおにし　えいた

ゲーム機もスマホも没収された夜逃避できずに勉強始める
二年　神田　都颯　かんだ　ひろはや

祖母ちゃんに編んでもらった手袋の穴を紡いだ母さんの糸
二年　富樫　拓未　とがし　たくみ

年末の決算の日の母を待ちほうじ茶入れる二十二時過ぎ
二年　生野　帆乃花　はいの　ほのか

長野県松本蟻ケ崎高等学校

寒い夜雪景色のなか帰り着く湯気立つ鍋が待っててくれた
一年　奥原　愛翔　おくはら　まなか

宝物を掘り当てるように雪かきをする老人に出会う早朝
一年　北河　恒輝　きたがわ　こうき

満天の夜空彩る星たちは塾が終わったあとの楽しみ
一年　小林　茉緒　こばやし　まお

喜寿の日に祖父へ祝いの手紙書く兄の横顔ほんのり赤い
一年　藤森　藍生　ふじもり　あい

原発や人口爆発温暖化グレタが危機を叫ぶ声聞く
一年　村山　颯哉　むらやま　そうや

岐阜県立吉城高等学校

不器用な母の手によるくるみボタンゆがんでいるがそれがうれしい
二年　岡田　千佳　おかだ　ちか

セントヨゼフ女子学園高等学校

舞台袖桃の踊り子隠れては出番はまだか疾く春よ来い
二年　西脇　愛華　にしわき　あいか

春の風すっとなびいて遠くまでタンポポ飛ばす春の訪れ
二年　山口　こころ　やまぐち　こころ

徳島県立脇町高等学校

光る様水面に写る彼の姿彼をすくうと私のものかな
二年　猪岡　奏太　いのおか　そうた

なあカエルおまえ冬眠せぇへんの巣ないのかもと穴掘ってやる
二年　逢坂　珠穂　おおさか　まほ

少し前きれいに澄んだあの海は今や世界のダストボックス
二年　大西　基宏　おおにし　もとひろ

満月が雲の隙間に見え隠れ刹那に照らすあなたの姿
二年　福永　くるみ　ふくなが　くるみ

宮崎県立日南高等学校

以前より手になじむのはしわくちゃのしょうゆのついた英単語帳
二年　八木　泰晴　やぎ　たいせい